

障害者支援施設 障害者福祉センター友愛寮

1 基本方針

思いやりと友愛の心を持ち、豊かで心のこもった利用者本位の質の高い福祉サービスを提供するために、職員一人ひとりが専門職としての資質向上に努め、安全かつ安心に、楽しく有意義に生活できるよう支援する。

地域とのつながりや共生を重視し、介護・支援を必要とする地域住民のニーズに応えられるよう、施設入所・通所・短期入所など各サービスの充実を図る。

2 利用者の状況（令和8年3月31日現在）

（1）入所者状況 (人)

利用人数		前年度末利用者数	令和7年度中の入退所状況								利用延人員	定員に対する年間平均稼働率	年度末利用者数	
区 分	定員		入所人員	退所人員	退所理由別									
					地域移行		家庭復帰	施設移管	契約解除 (入院等)	死亡				
					GH	アパート等								
生活介護	50	50	7	4	0	0	0	4	0	0	11,641	86.6%	53	
施設入所支援	50	44	9	4	0	0	0	4	0	0	16,049	87.9%	49	
6年度	生活介護	50	54	3	7	0	0	0	0	4	3	11,628	86.4%	50
	施設入所支援	50	47	2	5	0	0	0	0	2	3	15,749	86.3%	44

（2）障害支援区分

①生活介護 (人)

性別	障 害 支 援 区 分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	2	7	6	13	28
女性	0	0	0	2	4	6	13	25
計	0	0	0	4	11	12	29	53

平均障害支援区分
5.47

②施設入所支援 (人)

性別	障 害 支 援 区 分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	2	7	6	10	25
女性	0	0	0	2	4	6	12	24
計	0	0	0	4	11	12	22	49

平均障害支援区分
5.06

3 事業の実施状況

（1）安定的な施設運営及び施設の環境整備状況について

ア 下半期には、本人の希望に添った介護施設への移管や、入所希望者の積極的な受け入れを進め、入所定員の維持を図ったが、新規グループホーム開設に伴う入所調整により目標稼働率を下回った。

短期入所については積極的な受け入れを進め、目標稼働率を達成した。

＜稼働率実績（目標）＞

生活介護 86.6%（目標：90.0%）、施設入所支援 87.9%（目標：90.0%）
短期入所 64.2%（目標：50.0%）

イ 緊急災害時に備え、避難訓練の実施、火災報知器等の点検、停電時の室内灯や非常用電源装置の使用方法や保管場所の確認などを徹底するとともに、感染症対策物品の確保、感染症発生時におけるゾーニングと物品準備、標準予防策の徹底を行った。さらに、自然災害を想定した訓練（停電対応訓練、炊き出し訓練）や、感染症発生時のBCP訓練（業務継続計画）も実施し、訓練を通じて得られた改善点は随時BCPへ反映していく。

ウ 高齢者施設への移管や地域移行を意識した利用者の入所調整の推進、通所のあり方の模索、既存の施設を利用しながら、安心、安全で快適な生活の提供に努めるとともに、ソフト面での課題の整理など改善に向けた対応を進めた。

(2) 利用者の満足度の高いサービス提供について

ア 各部署が協働し、日々の利用者・家族との関わりから必要なニーズ把握に努めている。また、6か月に1回のケアカンファレンスにおいて、利用者の状況や課題について話し合い、情報共有を行っている。

さらに、月評では個別支援計画に基づくモニタリングと評価を行い、個別支援計画の充実を図ることができた。加えて、地域移行等に向けた意向確認にも取り組んだ。

イ 知識や技術向上を目的とした研修については、感染症予防、排泄、ガウンテクニックなど寮内で実施するとともに、外部での研修受講で得た知識、技術が職場内に還元できるように、施設内の復命研修を実施し、介護技術の知識向上、底上げに努めた。

ウ 保護者・利用者へ満足度アンケートを実施し、集計、検証を行い、要望や意見に対して改善に取り組み、サービス向上に努めた。

エ 施設入所者全員のみんなの会、意見箱の活用により苦情や意見を汲み取り、苦情解決委員会で検討し、第三者委員の助言もいただきながら、施設運営や支援の改善に努めた。

オ 施設内における虐待やハラスメントの防止に向けて、虐待防止チェックシートの実施や業務振り返りシートの活用を行い、人権意識の啓発に努めた。また、虐待防止研修の実施や報告体制の徹底などを通じて、風通しのよい働きやすい職場づくりに継続して取り組んでいる。

カ 食事については、障がいの重度化や疾病により咀嚼・嚥下機能が低下した利用者に対し、刻み食やなめらか食など個々の状態に応じた対応を行っている。また、食器類や自助具の工夫・検討も進め、適切な食事支援に努めている。

さらに、嗜好調査や利用者からの意見・要望を献立に反映させるとともに、毎月の行事食、全国の郷土料理、世界各国の料理、旬の食材を取り入れた季節感のある食事提供や行事食の実施など、食の時間をより楽しめる工夫を凝らしている。

キ 利用者のアセスメントを随時実施し、心身機能の維持・向上に向けて生活リハビリに取り組むとともに、各部署と情報共有し、介護方法の検討を継続して実施した。

また、利用者及び職員双方の負担軽減を図るため、リフトやスライディングボード等の福祉用具の活用促進に取り組んだ。

ク 生産性向上委員会を設置し介護現場の課題把握と業務改善に向けた取り組みを開始した。利用者の安全確保・サービスの質向上・職員の負担軽減を目指し改善を進めていく。

(3) 医療的ケアの充実について

ア 日々のケアの中で他部署との連携を図り、必要な情報伝達を詳細に行い、異変への早期発見、早期対応につなげた。また、職員全員に救命救急の研修を実施し、緊急事態への対応力と発生時に備えた体制づくりを進めた。

イ 有資格者による安心、安全な医療的ケアを実施するため、痰吸引などの寮内研修を行い、手技の確認や評価を通して必要な技術の維持、習得に努めた。

(4) 地域生活の継続と推進について

ア 通所及び短期入所利用者とその家族が安心して生活を継続できるよう、ニーズ把握を適切に行うとともに、各利用者の相談員との連携を強化した。さらに、緊急ショートの依頼にも柔軟に対応するなど、緊急時の支援を含め、支援区分を問わず積極的にサービス利用の受け入れに努めた。

イ 市民や近隣住民との協働・交流については、日中活動のボランティアの受け入れなどの協力を得ているものの、災害時の協力体制や相互交流の構築については十分に進められていない状況である。一方で、地域連携推進会議においては、地域住民や保護者に対して、施設の取り組みや状況を説明し、サービスの透明性の確保と質の向上に取り組んだ。

(5) 日中活動の支援について

ア 日中活動として、書道やダンスの講師を招き、多くの利用者に喜んで参加していた
だいている。また、花見や節分、納涼祭やクリスマスなど季節の行事を大切にし、利
用者の生活の中の喜びにつながるように努め、日中活動の満足度向上を図っている。

イ 日中活動へボランティアの参加を進め、地域の方々と交流が図れるように努めた。
外部との関わりを持つことで、利用者にとって新たな刺激や楽しみが生まれ、活動の
幅が広がるよう支援している。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	実習期間(月)	実人員	延人員
鳥取社会福祉専門学校	11月	4人	20人
介護等体験	8～9月	6人	30人
県新規採用職員体験	10月	2人	4人
計		12人	54人

(2) ボランティアの受入実績

鳥取市赤十字奉仕団 (7名)

ボランティア体験事業 (5名)

スポレク・読み聞かせ (1名)

5 附帯事業

(1) 短期入所事業 定員 併設 4名及び空床型

(2) 日中一時支援事業 定員 上記同様

(3) 利用実績 (人)

事業区分	今年度利用者数		前年度実績利用者数	
	実人員	延人員	実人員	延人員
短期入所事業(宿泊有)	17	937	18	935
日中一時支援事業	0	0	0	0